

Lib.

ISSN 0287-976X



Keep Innovating.

京都産業大学図書館報

Vol. 42, no. 2 (Oct. 5, 2015)

●特集！

京都産業大学図書館書評大賞講演会報告

～書くこと、そして働くこと～（講師：津村 記久子氏）

関連記事／「書くこと、そして働くこと」にまつわる etc.

●ブック・ツイート大賞 2015年度（春学期） 入賞作品発表！

京都産業大学		
図書館書評大賞講演会報告		2-4
「書くこと、そして働くこと」 にまつわる etc.		5-6
図書館を賢く使ってください。 2015年度（春学期）		7
ブック・ツイート大賞入賞作品発表！		8-9
ピブリアたいむず		10
図書館と私		11
情報の探し方	No. 26	12-13
今をキャッチ。	宮川 康子	14
自著を語る	吉澤 卓哉	15



京都産業大学図書館書評大賞講演会報告



津村記久子氏をお迎えして

-- 書くこと、そして働くこと --

2015年7月1日、芥川賞作家の津村記久子氏をお迎えし、京都産業大学図書館書評大賞講演会を開催しました。本学法学部・山口亮子先生がインタビュアーを務められ、和やかな雰囲気で行われました。主な著作において「お仕事小説」と言われるジャンルが多いということもあり、『書くこと、そして働くこと』というテーマに沿ってお話いただきました。

※以下「山」は山口先生の質問など、「津」は津村氏のコメント

山:『ポトスライムの舟』という作品では、雨や水の表現が象徴的に使われていますが、どのようなメッセージが隠されているのでしょうか。また、ポトスについてはいかがですか？

津:雨や水や川が好きです。雨は人間への恩恵であるからでしょうか。ポトスについては自分で育てたことがあり、生命力が強くて増える様子が面白いんです。

～働くことについて～

山:働くことについての問題点などはどうお考えですか？

津:働く上で、女性の場合問題となるのは産休、産む時期などでしょうか。友人の話など聞いていると、男性の方が足を引っ張り合う印象です。仕事面での嫉妬など、むしろ女同士より複雑だしひどいと感じます。

山:男女の働き方・役割分担・社会の仕組みについてはどうですか？

津:これまでの社会は女性が家庭を支えてきて、男性はその上で働いていて家庭を顧みなかった。そのような時代を生きた人が社会の制度を作っているうちは良くならないと思っています。きつい言い方になっちゃいましたけど(笑)。



前半は山口先生からテーマを絞って質問をしながらかお聞きする形式で進みました。

後半は参加者から質問を募る形で質疑応答が行われました。

津村記久子(つむら きくこ)氏

1978年、大阪府生まれ
大谷大学文学部卒業
現職 作家

受賞

2005年「マンイーター」

※のちに『君は永遠にそいつらより若い』に改題
第21回太宰治賞を受賞

2008年『ミュージック・プレス・ユー!!』

第30回野間文芸新人賞を受賞

2009年『ポトスライムの舟』

第140回芥川賞を受賞

2011年『ワーカーズ・ダイジェスト』

第28回織田作之助賞を受賞

2013年「給水塔と亀」

第39回川端康成文学賞を受賞

他の作品

『やりたいことは二度寝だけ』、『アレグリアとは仕事はできない』、『ポーズケ』、『エヴリシング・フロウズ』、『これからお祈りにいきます』など著書多数

山:小説の中に不満だとか意見を書くことができるんですね。これから社会人になる学生たちは、そういった年齢や男女、能力による差別や問題について、小説を読むことで知ることができ、学んだり共感できますね。

津:そうですね。こういうことはずっと言い続けたい。小説では正々堂々と悪口が書けるんですよ(笑)。

山:ハラスメントについて、「十二月の窓辺」という作品に出てきますね。

津:会社で誰かがひどい目に遭っていても無視をする。そういった状況はどこにでも起こり得るんです。自分の働いていた頃には「モラハラ」という言葉が無かったというだけで、そういう状況はあったと思います。

山:労働と休暇についてはいかがお考えですか？ 欧州では休暇はまとめて取るし有給の消化率がほぼ100%であるのに対し、日本では30-40%と言われています。休暇を取らないし取れない。休みといっても同じときに皆が集中して取るから、かえって疲れてしまいますよね。

津:働いている時は休みに小説を書いていたのですが、今は専業になっているので、メリハリが無くなって。境目が無いので休み方がよく分からなくなりました。

山:余暇は何をしたいですか？

津:海岸で寝そべったりボーッとしたいです。けど実際には、大人になってからリラックスするのは本当に難しいことだと感じます。

山:仕事しながらボーッとするのはいくらでもできるのですが、まさにダメな感じで。

津:仕事でもなんですけど、休み中も気が散っちゃうんですよ。学生の時は思い切りリラックスできていたのですが、そのやり方が思い出せない(笑)。

山: サッカーがお好きだと聞いていますが、観戦に行くことはありますか？
津: 行くこともありますし、テレビでも見ます。自分の応援しているチームの「あかん」ところを見ていると、自分のダメな部分を考えなくていいので楽なんです。そのような自分のことを考えない、自分探しをやめる感覚はリラックスにつながっているのかもしれないですね。
山: 働くことも大切ですが、学生の皆さんにはぜひ、ワークライフ・バランスについても考えてほしいですね。



会場からの質問にも丁寧に答えてくださいました。

～書くことについて～

※以下「Q」は会場の参加者からいただいた質問、「A」は津村氏のコメント

Q: 書くことがコワイと感じますが、慣れるものですか？

A: 文章を書くことは、ずっと書き続ければ慣れます。小説は考える作業が必要で、慣れとは別の難しい部分もあります。

Q: キレイな文章を書くにはどうすれば良いですか？

A: 良いものをたくさん読むといいです。読まないことには文章はうまくならないと思います。アメリカの作家でカート・ヴォネガットという人の作品を読んだとき、表現が独特でうまいと思いました。作家にはその人独特の表現方法があります。自分が面白いと思える表現を見つけるのが、上達への近道です。

Q: 作品として「家族」が扱われることが多いですが、今後どのような題材をお考えですか？

A: 家族が一番選べないもので、親と反りが合わなかったり、家族の呪いのようなものがあると思うんですけど、そういう影響を受けながらも、自分の人生は選べるんだというメッセージを伝えることができると考えています。あとは、家族を作ることと作らないこと。それぞれの良さをフラットに書いてみたいですね。

Q: 仕事をしたくない時にはどうしますか？

A: 基本はしたくないです(笑)。そうも言っていられないので、キッチンタイマーで25分計って仕事をして、休んでとか、メリハリをつけるようにしています。

Q: 新しい作品を書くとき、前の作品より良いものになるかどうか不安になることはないですか？

A: あります。そもそも、キッチンタイマーで計っている25分間以外の時間に小説を書く自信がなかなか持てないんです。自分自身が不安になりやすいタイプなのかもしれません。

Q: 何のために書くのですか？

A: 小説が好きだからでしょうか。いいものが書けた、と思える瞬間のために書くのかもしれないですね。

Q: 芥川賞受賞前後でなにか変わりましたか？

A: 講演のお仕事やエッセイのお仕事が増えました。

Q: 夜中に書く、とのことでしたが大変なのは？

A: メールなどが来ないので良いですよ。他人が寝ている時間を使っているという優越感があります。

Q: 文章を書くときに暴走してしまうのですが、どうしたら良いですか？

A: 1回暴走させて、後で読み直して再認識する。いくらでも暴走させたら良いと思いますよ。

Q: いつから作家になろうと思っていましたか？

A: 幼稚園くらいの時に祖母が亡くなった際に「やりたいことをやろう」と思ったのがきっかけでした。

Q: 学生に何かメッセージをお願いします。

A: 書くことについて、恐れと同居しながら書くことが大切です。書けると思って書いたら良いものにはならないことが多いので、恐れながら書き続けることで、その感覚を身に付けてほしいです。

働くことについて、最初はやりがいを感じない仕事かもしれないけれど、やり続けるうちにその仕事の良さが見えてくるのかもしれない。あまり「やりがい」を求め過ぎないで、1回はやってみる。自分に向いている仕事を見つけることの方がはるかに難しいと思います。がんばってください。



津村さん、山口先生、有難うございました！

京都産業大学図書館 書評大賞講演会を終えて

法学部教授 山口 亮子



2015年度の書評大賞講演会は、例年のスタイルと異なり対談方式で行うこととなりました。そこに私がインタビュアーを務めたのは、津村記久子・深澤真紀著『ダメをみがく：“女子”の呪いを解く方法』を図書館から借りて読んでいたからでした。大学教員の仕事は、研究、教育、そして会議等多岐にわたり、忙しさと自らの能力の限界を感じたりして、多少なりともどこかで「ダメ」な自分を抱えています。また加えて女性であるが故に、世間でいうところの女子力とも戦わなければならない(必ずしも戦う必要はありませんが、多少は意識する)、もう降参状態満載な時期があるわけで、この本はすっかり私を癒してくれました。芥川賞作家の津村さんも、作家として私人として葛藤する自分をさらけ出してお話ししてくださり、対談は大変リラックスしたものとなりました。しかしそれはしばらくして、高度な自分を追求する故の葛藤であり、諦念であり、戦いなのかということが、津村さんの言った「恐れと同居する」という言葉からわかりました。書くことは怖いですが、それを受け入れてそれでも書いていく、という津村さんの姿勢は、人生の様々なところで謙虚に精進することの大切さを言い表しているのではないのでしょうか。



「勉強も就職活動もどうか頑張ってください」(津村さん)

図書館
サポーターチーム

ビブリアが津村さんに質問しました

Q: 講演会を終えての感想をお聞かせください。

A: 山口先生からいろんなおもしろい質問を出していただいたので、話していておもしろかったです。会場からの質問もあってよかったです。

Q: 図書館はどのように利用されておりましたか。

A: とにかく本を借りていました。大学4年間間は通学時間が長かったので、すぐ本を読んでいました。

Q: 大学時代にどのような本を読まれておりましたか。

A: ハヤカワ文庫や創元文庫などのSFを読んでいました。レイ・ブラッドベリ、カート・ヴォネガットなどを読んでいました。

Q: 好きなことや大切にしていることは何ですか。

A: 寝ることが大好きですね。あと、自転車に乗ることが好きです。

Q: 学生へのメッセージをいただけますか。

A: まわりの人が自分に都合のいいことを言ってきたりも耳を傾けずに、あなた自身のやりたいことをやってください。



津村さん、ありがとうございました！

京都産業大学図書館 書評大賞講演会 「書くこと、そして働くこと」にまつわる etc. ①

今回の講演テーマにちなみ、津村氏のエッセイや、書くこと、働くことに関連する資料をいくつかご紹介します。

働くって大変!?
お仕事エッセイなど



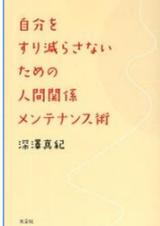
『ダメをみがく』
：“女子”の呪いを解く方法』
津村記久子、深澤真紀著、紀伊國屋書店、2013
(914.6||TUM 2階)

コラムニストである深澤真紀氏と津村氏が対談。ダメな自分を認めつつ、仕事や人間関係と向き合うには？お二人の痛快なやりとりにはヒントが見つかるかもしれません。



『自分をすり減らさないための人間関係メンテナンス術』
深澤真紀著、光文社、2009
(159||HUK 地下1階)

『ダメをみがく』の深澤氏が、日経ビジネスオンラインで連載していたコラムを書籍化。車やパソコンのように、時には自分をメンテナンスして長持ちさせる技術を指南してくれます。



『やりたいことは二度寝だけ』 津村記久子著、講談社、2012 (914.6||TUM 2階)

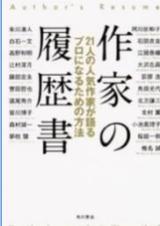
『二度寝とは、遠くにありて想うもの』 津村記久子著、講談社、2015 (914.6||TUM 2階)



昼間は会社員、夜は執筆活動と、芥川賞受賞後も“兼業”を続けてこられた津村氏の日常が綴られたエッセイ集。「二度寝」は、毎日同じ時間に起きて学校や仕事に行く人にとって憧れのワード。津村氏は2012年の後半以降、会社を辞め執筆活動一本の生活になりました。はたして「二度寝」はできたのか？それは『二度寝とは……』のあとがきでコメントされています。

『作家の履歴書：21人の人気作家が語るプロになるための方法』
阿川佐和子ほか著、KADOKAWA、2014
(910.264||AGA 2階)

タイトルどおり、21人の人気作家が経歴や志望動機、転機などを語っています。中でも「執筆のペース」がそれぞれ違って、そこだけを比べても一興です。



『小説家という職業』
森博嗣著、集英社、2010
(901.307||MOR 2階)

著者は『スカイ・クロラ』シリーズなどで知られる森博嗣氏。自ら執筆活動を「ビジネス」と位置付けて、プロの視点から「小説家という仕事」を論じています。



書くこと……
作家というお仕事



『貧乏するにも程がある：芸術とお金の“不幸”な関係』
長山靖生著、光文社、2008
(910.26||NAG 2階)

「文豪」と呼ばれる作家たちも、最初から経済的に成功していたわけではなかった？芸術家や作家とお金にまつわる関係が綴られています。



『どうして書くの？：穂村弘対談集』
穂村弘著、筑摩書房、2009
(914.6||HOM 2階)

歌人・穂村弘氏と7人の「言葉を書く人間」との対談集。作家だけでなく、歌手・一青窈氏とも「書くこと」について語り合っています。



『蟬聲(ひんしゆく)文学カフェ』
高橋源一郎、山田詠美著、講談社、2011
(910.264||TAK 2階 文庫)

著者の高橋氏と山田氏が「蟬聲文学カフェ」のホストとして様々なゲスト作家と共に文学を語り合います。「蟬聲」ってすばらしい！



京都産業大学図書館 書評大賞講演会 「書くこと、そして働くこと」にまつわる etc. ②

さまざまな思いを抱えて“働く”主人公たち。そんな作品の中から、津村氏の著作をはじめいくつかご紹介します。



津村 記久子
お仕事小説

『ワーカーズ・ダイジェスト』

集英社, 2014 (913.6||TUM 2階 文庫)
(2011年 第28回織田作之助賞受賞)



仕事の打ち合わせで出会った奈加子と重信は偶然にも名字や生年月日が同じ32歳！でもそんな二人が日々直面する問題は様々で、いったいどこで繋がるのか。展開が気になる作品です。

『ポトスライムの舟』

講談社, 2009 (913.6||TUM 2階)
(2009年 第140回芥川賞受賞)



津村 記久子
ポトスライムの舟

アラサー独身女性のナガセは、契約社員(薄給)として働く工場の他にも仕事を掛け持ちして生活しています。淡々とした毎日の中で働く意味や幸せのカタチを模索するナガセの姿が印象的です。主人公ツガワが会社での人間関係に悩む「十二月の窓辺」も収録。

『そういうものだろ、仕事っていうのは』

重松清ほか著, 日本経済新聞出版社, 2011
(913.68||SIG 2階)

津村氏の他に、重松清、野中柊、石田衣良といった6人の作家たちが「働くこと」をテーマに執筆した短編集です。



『アレグリアとは 仕事はできない』

筑摩書房, 2013
(913.6||TUM 2階 文庫)

アレグリアとは？それはコピー等の複合機のこと！不具合を起こすアレグリアの描写は気まぐれ女子のように絶妙です。



『海賊とよばれた男』上・下

百田尚樹著, 講談社, 2012
(913.6||HYA||1・2 2階)



主人公・国岡鐵造のモデルは出光興産創業者である出光佐三氏。困難に見舞われながらも戦後の日本を邁進する経営者の姿がそこにあります。

『舟を編む』

三浦しをん著, 光文社, 2011
(913.6||MIU 2階)



ある出版社の辞書編集部が舞台。新しく編纂される辞書『大渡海』が完成するまでの長い道のりが描かれます。読み終えた時、辞書をめくりたくなるかも？

まだまだあります！
お仕事小説



『蟹工船；一九二八・三・一五』

小林多喜二著, 岩波書店, 2003
(913.6||KOB 2階 文庫)

蟹工船に乗り込んだ貧しい労働者たちは逃げ場のない海の上で過酷な労働を強いられます。初版が発行されたのは1929年ですが、今また注目されています。



『下町ロケット』

池井戸潤著, 小学館, 2013
(913.6||IKE 2階 文庫)

町工場の社長・佃航平は自社の技術に誇りを持ち、たとえ経営難であってもロケット部品の開発を続けます。夢をあきらめない大人たちの物語です。



『書店ガール』

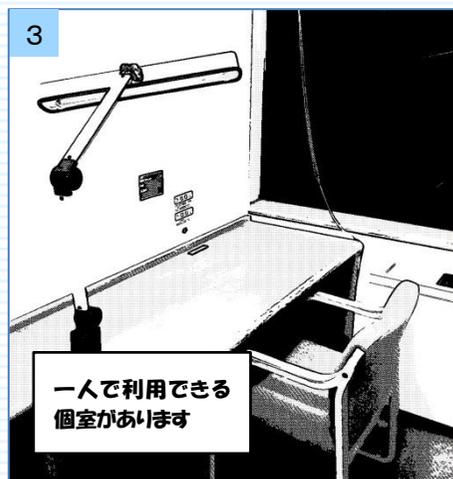
碧野圭著, PHP研究所, 2012
(913.6||AON 2階 文庫)

現在4巻まで出版されている人気シリーズ第一作。新人書店員の亜紀と店長の理子が物語の中心ですが、意外と知らない書店員の仕事内容も必見です。



図書館を賢く使っていただきます。

～その6 学習室の使い方～



4 *2階メインカウンター後ろに掲示しています。

研究個室・グループ学習室の設備について

	3・4人用			3-8人用			個人用			2人用
	205	206	201	202	203	211	212	213		
2階	<input type="checkbox"/>									
3階	<input type="checkbox"/>									

ほかに3・4人用の部屋や2人用の部屋があります

設備

- △ PC用モニター
- ホワイトボード

全館無線LANおよびインターネットコンセント設置可能

☆記号が現れている部屋が使用できます。
☆202, 203, 302, 303のみノートパソコンの貸出ができます。

8人部屋ではパソコンとモニターを用意しています！



個人でもグループでも OK！図書館の学習室！

個室での集中した学修や、グループ討議、プレゼン練習などでご活用ください。

* 電話などのご予約は受け付けておりませんので、直接2階メインカウンターでお申し込みください。飲食の際は1階の休憩室をご利用ください。

2015年度 ブック・ツイート大賞（春学期）

入賞作品発表！

「ブック・ツイート大賞」は、本学図書館に所蔵されている本の中から、自分の好きなおすすめ本を、200～300字で紹介するものです。応募された作品に対して、図書館利用者による投票が行われ、春学期、秋学期とも得票数上位3名が選出されます。2月には得票数に加えて内容を総合的に審査し、年間を通じての大賞と優秀賞を決定・表彰します。

ここでは2015年度春学期分の入賞作品を紹介します。 ※作品のオリジナリティを尊重し、表記や行間など、応募時のまま掲載します。

法学部 1 年次生 中村 翔大



グレッグ・イーガン著；
山岸真訳，早川書房，2005
(933.7) | EGA 2階 文庫)

『ディアスポラ』

ムズかしいけど読んでみたい。知らないからこそ知ってみたい。読書家なら、持っているはずその気持ち。それなら推したい『ディアスポラ』。ジャンルはSF。難度は最高。千年進むのは当たり前。造語もたくさん、科学に物理に、混乱するのに事欠かない。わからないなら読み飛ばせ。三割わかれば楽しめる。

時は今から九百年後。舞台は小さなコンピュータ。けれどそこには街がある。主人公は孤児、名前はヤチマ。数学好きの引きこもり。そんな奴が街を抜け出し、向かう先には緑の大地。なぜって？ 友人に連れ出されたから。どうして？ 友人は知っていたから。何を？

——地球は、あと三日で滅亡する。

理学部 1 年次生 谷岡 正規



三浦しをん著，新潮社，2009
(913.6) | MIU 2階)

『風が強く吹いている』

『頂点を目指そう』
知らず知らずのうちに大学の陸上部員となっていた竹青荘の個性豊かな住人たち。ほとんどが素人で、しかもたった十人で箱根駅伝を目指す？

速さを求めるのなら自動車に、新幹線に乗ればいい。
ならなぜ走るのか。走る意味ってなに。

これって生きることの意味に似ていると思いませんか？
その答えは人それぞれ違うし正解もないと思います。
主人公の蔵原走はメンバーと走ることで探し求めた答えを見つけます。
私たちが大学で多くのことを学び自分なりの答えを見つけたいものです。

最後に！
そんな深く考えなくても臨場感たっぷりて胸が熱くなる青春小説となっております。
この機会に是非!!

あなたもきっと頂点が見えるはず。

文化学部 3 年次生 竹内 歩



森見登美彦[著]，角川書店，
2012
(913.6) | MOR 2階 文庫)

『ペンギン・ハイウェイ』

どこにでもいそうな賢く理屈っぽい可愛らしい男子小学生の「ぼく」と優しく面白い「お姉さん」の周りに不思議なことが起こる。

読んでいるとすぐ頭の中に風景や登場人物が浮かんでくるような文章で、それ故に登場人物に、特に主人公に感情移入してしまう。

冒険のワクワク感や初恋の切なさを思い出させてくれる。そんな作品。

みなさんも是非『ペンギン・ハイウェイ』を読んで彼らの世界に入り込み、彼らの世界で様々な感情を味わってみてください。

◆応募図書一覧（50音順）

書名 ※[]内は重複数	著者	出版者・出版年	所蔵情報
悪魔の涎：追い求める男：他八篇：コルタサル短篇集【2】	コルタサル [著]；木村榮一訳	岩波書店, 1992	963 COR 2階 文庫
家守綺譚	梨木香歩著	新潮社, 2006	913.6 NAS 2階 文庫
ヴェニス商人	[シェイクスピア著]；大場建治編注訳	研究社, 2005	932.5 SHA 3 2階
風が強く吹いている	三浦しをん著	新潮社, 2009	913.6 MIU 2階 文庫
きみにしか聞こえない：Calling you	乙一 [著]	角川書店, 2001	913.6 OTU 2階 文庫
蜘蛛女のキス(改訂新版)	マヌエル・プイグ著；野谷文昭訳	集英社, 2011	963 PUI 2階 文庫
思考の整理学	外山滋比古著	筑摩書房, 1986	141.5 TOY 2階 文庫
重カピエロ	伊坂幸太郎著	新潮社, 2006	913.6 ISA 2階 文庫
スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン = The legendary speeches and presentations of Steve Jobs	[スティーブ・ジョブズほか述]；『CNN English Express』編集部編集	朝日出版社, 2012	837.7 JOB 地下1階
テア男子!!	朝井リョウ著	集英社, 2013	913.6 ASA 2階 文庫
痴人の愛(改版)	谷崎潤一郎著	中央公論新社, 2006	913.6 TAN 2階 文庫
テルドレン	伊坂幸太郎 [著]	講談社, 2007	913.6 ISA 2階 文庫
ディアスポラ	グレッグ・イーガン著；山岸真訳	早川書房, 2005	933.7 EGA 2階 文庫
ディズニー批判序説：盗むディズニー訴えるディズニー	木勸悟著	データハウス, 2001	778.067 KAB 2階
天地明察(上, 下)	冲方丁 [著]	角川書店, 2012	913.6 UBU 1 2階 文庫
通りすがりの男	フリオ・コルタサル著；木村榮一 [ほか] 訳	現代企画室, 1992	963 COR 2階
ハツカネズミと人間	スタインバック[著]；大浦暁生訳	新潮社, 1994	933 STE 2階 文庫
阪急電車	有川浩著	幻冬舎, 2008	913.6 ARI 2階
人を動かす(新装版)	D・カーネギー著；山口博訳	創元社, 1999	159 CAR 2階
不思議な少年(改版)	マーク・トウェイン作；中野好夫訳	岩波書店, 1999	933 TWA 2階 文庫
ペンギン・ハイウェイ	森見登美彦 [著]	角川書店, 2012	913.6 MOR 2階 文庫
ぼくらの祖国	青山繁晴著	扶桑社, 2011	304 AOY 3階
町でいちばんの美女	チャールズ・ブコウスキー[著]；青野聡訳	新潮社, 1998	933 BUK 2階 文庫
街物語；アメリカ	JTB 日本交通公社出版事業局	JTB 日本交通公社出版事業局, 1995	295.3 NIH 2階
微睡みのセフィロト	冲方丁著	早川書房, 2010	913.6 UBU 2階 文庫
夜間飛行(改版)	サン＝テグジュペリ[著]；堀口大學訳	新潮社, 1967	953 SAI 2階 文庫
夜のピクニック	恩田陸著	新潮社, 2006	913.6 OND 2階 文庫
若者たちの戦場：アメリカ日系二世第 442 部隊の生と死	ドロシー・マツオ著；新庄哲夫訳	ほるぷ出版, 1994	209.74 MAT 2階

◆2015年度秋学期 応募要領

秋もやります！



応募資格：本学学部学生，大学院生

対象資料：本学図書館蔵書

応募期間：2015年11月9日（月）～11月27日（金）

応募方法：パソコン，携帯，スマートフォン等からのメールによる送信（件名、本文には以下の項目を入れてください）
件名：BT

本文：氏名，学生証番号，ペンネーム（希望者のみ），本のタイトル，著者名，応募作品（200～300字）

応募回数：1人複数編応募可 *ただし入賞は一人1編とする

氏名：ペンネームの使用を認める（ただし表彰対象となった場合は，入賞者名を実名で公表）

剽窃：応募作品は本人のオリジナルであり，かつ未発表であること（盗用厳禁）

その他：誹謗・中傷等，表現や内容に問題のあるものは不可

投票のため，応募作品と対象の図書の情報を印刷して配布，またPOSTに掲出

送付先：lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp

投票期間：2015年12月7日（月）～12月18日（金）

応募作品の著作権は，京都産業大学に帰属します。投票数上位3名に図書カード1,000円を贈呈します。

ビブリアたいむず

図書館サポートチーム「ビブリア」の活動内容やお知らせをお届けします！

活動報告

今年の春から新メンバーの加入もあり、より活発に活動に取り組んでいます。

5月には、他大学図書館でボランティアやアルバイトなど、主体となって活動している学生団体が一堂に会する、第7回「学習支援プロジェクト」研修(場所:武庫川女子大学)に参加させていただきました。他大学との交流は、ビブリアにとって大きな刺激になりました。

6月には、図書館書評大賞講演会の宣伝のため、KBS京都のラジオ番組「竹内弘一のズキュー〜ン」に出演し、番組内の「アカデミックカフェ」コーナーにて、8分程度の時間で講演会の概要や講師である津村記久子さんの紹介をしました。本番ではMCの竹内弘一さんのアドリブもあり、大変緊張しました。ビブリアとして初めての取り組みであり、良い経験になったと感じています。



(写真)KBS京都正面玄関

ビブリア × Facebook

今年の夏から、ビブリアの公式Facebookアカウントを新設しました。昨年からの取り組みに向けた準備を始め、図書館スタッフの方々の協力を経て実現いたしました。図書館公認の団体として、公式アカウントで情報発信を行っています。

過去の活動やメンバーの取り組みや、月ごとの展示など最新の動向を更新しています。また、図書館に関連するイベントなどがある際はその都度告知を行っています。ぜひご覧ください。

FacebookアカウントURL

<https://www.facebook.com/bibliaksu> まで

お知らせ



ビブリア × 神山祭

ビブリアでは、今回初めて第50回神山祭に部展を出店いたします。テーマは「POP & QUIZ」です。

内容は、クイズ形式のイベントやこれまでの活動紹介などを行う予定です。場所は神山ホール図書館側入り口すぐです。

興味のある方は、ぜひお越しください。

新メンバー募集！

ビブリアは図書館で活動している学生団体です。具体的には、おすすめ本のPOP作製や図書館に関して企画を立案する団体です。本好きにはたまらない！

他の活動やサークルとの掛け持ちも大丈夫なのでぜひ、一度お越しください。お待ちしております！

活動日: 毎週水曜日

時間: 12:15~(昼休みを中心に活動しています)

場所: 京都産業大学図書館 3階業務ブース

連絡先: lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp

図書館と私

新連載
コーナー

このコーナーでは、図書館にまつわるエッセイを掲載します。

【第1回】理学部教員 村瀬 篤（むらせ あつし）

図書館との出会いは、小学校5年生のとき、学校の図書館で子供向けの推理小説全集を見つけたときです。シャーロックホームズや怪盗ルパンなどを借り出し、読みふけりました。小学校と中学校では図書委員をしていましたし、高校では、図書局に入局しました。放課後に、図書の貸し出し業務や新刊本の整理を手伝いました。職権を乱用して、禁帯出の数学辞典を持ち出し、授業中にこっそり読んだこともありました。

本学に着任した直後に現在の中央図書館ができました。美しい自然に囲まれた図書館は、居心地が大変よいことに加えて、検索システムの使い勝手が素晴らしく、ほとんど毎日のように利用しています。大学に着くと、まず図書館に立ち寄り、新着コーナーをチェックして、新刊のおもしろそうな本や、あらかじめ検索システムで調べておいた本を借り出します。時間があるときは、地下の書庫をさまよって閉架図書を眺めたりしています。

本学の図書館は、様々な貴重資料を所蔵していますが、私の専門の数学に関しては、最も偉大な数学者の一人であるレオンハルト・オイラー(1707-1783)の全集があります。この全集(Leonhardi Euleri Opera Omnia)*は、すでに100年以上にわたって刊行が続いており、80巻近く発刊されていますがまだ完結していません。極めて独創的なオイラーの発想は今でも古びていません。時間ができたら、オイラー全集を少しずつ読むのが目下の夢です。

自分の専門については、最近ではネットで論文をダウンロードすることがほとんどなので、以前ほど図書館を利用しなくなりましたが、専門以外の本はいつも限度いっぱい借り出しています。特に700番台の芸術関係の資料は充実していて、絶版で手に入らない画集、写真集や映像資料が多数所蔵されており、恩恵にあずかっています。

中央図書館を20年以上利用していますが、いまだに「こんな本があったのか」となることがあります。私にとっての図書館は、汲めども尽きぬ泉のような存在です。本は単独で存在するものではなく、ある本から関連する別の本へと導かれていくものです。図書館は、本のネットワークをたどるための強力な場です。学生の皆さんも、試しに自分の興味のある趣味や分野の本を探してみたいかがででしょうか。自分の人生を豊かにしてくれる思いがけない発見があるはずですよ。

※ "Leonhardi Euleri Opera omnia" Teubner, 1911-
(408||EUL 地下2階)



情報の探し方 No.26

現在導入しているデータベースなど、学修・研究をする上で欠かすことのできない検索ツールの利用方法などを紹介するコーナーです。



2015年4月より、「Artemis Literary Sources」の利用を開始しました。

Gale社が長年にわたり刊行を続けている文学資料や文芸批評などを1つのプラットフォームに統合した文学データベースです。アメリカを中心に全時代の作家・詩人・エッセイスト・ジャーナリスト、その他の作家について、人物情報・作品解説・文学的評論などの情報を閲覧できる「Literature Resource Center」の後継データベースにあたります。

初期インターフェースは英語ですが、日本語に切り替え可能です。



Artemis Literary Sources のトップページです。

本学図書館Webサイト「データベース」ページ (http://www.kyoto-su.ac.jp/lib/search/ir_svcdb/ir_svldb.html) から、語学・文学分野内にある「Artemis Literary Sources」をクリックするとアクセスできます。

「Artemis Literary Sources」には7つのデータベースが収録されており、トップページからキーワードでまとめて検索することができます。



幅広い分野の著者について、人物概要や評論、作品解説、書評などを収録しています。



詩歌、短編小説、演説、戯曲などの文学作品について、全文や書誌などを収録しています。



「Contemporary Literary Criticism」など、Gale社の各種論評コレクションを収録しています。



Gale社の作家伝記シリーズ「Dictionary of Literary Biography」を収録しています。



Gale社の児童文学作家評伝シリーズ「Something about the Author」を収録しています。



「British Writers」シリーズなど、Scribner社刊行の作家評伝シリーズを収録しています。



「Twayne's World Authors Series」など、Twayne社の作家評伝シリーズを収録しています。

事例として、『偉大なるギャツビー』で著名な「スコット・フィッツジェラルド(Francis Scott Key Fitzgerald)」氏を検索してみましょう。なお、インターフェースは日本語に設定してあります。

◆キーワードで検索



Artemis Literary Sources トップページに検索ボックスがありますので、「Fitzgerald」と入力して検索します。本データベースのコンテンツには日本語のものは含まれていないため、「フィッツジェラルド」では検索でヒットしませんのでご注意ください。

◆検索結果



9,922件ヒット(2015年9月29日現在)しました。1件目の情報から詳細を確認してみましょう。左図①は見出しです。「Fitzgerald, F. Scott 1896-1940」とあり、探していた情報と合致することが分かります。②は情報の出典です。「American Writers: A Collection of Literary Biographies.」とあります。ここまでの情報でどの文献の、どの部分の情報が検索でヒットしたのかが分かります。

◆本文の確認



検索結果で見出しをクリックすると、本文を確認することができます。画面上部には見出しのタイトルや著者、掲載されている資料などの情報が掲載されていて、続いて本文を参照することができます。

左図の赤枠内に、各種メニューがありますので、特徴的な機能をピックアップして紹介します。「引用書式ツール」(Citation Tools)では、引用情報を参照することができます。「電子メール」(E-mail)では、特定のメールアドレス宛に情報を送信することができます。このとき、参照している本文をメール本文にテキストで貼り付けたり、原資料のPDFを添付ファイルとして送信することができます。「ダウンロード」(Download)では、メール送信時と同様に原資料のPDFファイルをダウンロードすることができます。「記事の翻訳」では、参照している記事の本文を日本語などに翻訳することができます。ただし自動翻訳なので、内容は参考程度に留めるべきです。「聴く」では、本文のテキストを音声で聴くことができます。翻訳した言語が反映されますので、日本語に翻訳した場合は日本語で音声流れます。ただし、機械での自動読み上げになります。MP3形式で音声をダウンロードすることもできます。

画面左側には「American writers」や「The Great Gatsby (Novel)」など、関連する主題が表示されています。クリックすることで、新たに主題で検索を展開することができます。

◆その他の機能紹介



検索結果の画面から、別の検索を展開することができます。画面左のメニューから結果の絞り込みや、別の関連するキーワードでの検索をすることができます。

今回は、分析メニューのトピック検索を紹介します。クリックすると左図の画面が表示されます。「Fitzgerald」というキーワードの検索結果の中から、テキスト内で最も頻繁に出現する語句や主題を視覚化したものです。フィッツジェラルド氏に関連するキーワードが図で見えるようになるため、イメージをつかむのに便利です。

紹介した検索はほんの一例です。ぜひ一度利用してみてください。

キーワード 05

政治的な自覚と思考の力

(解説:宮川 康子)



2013年東京岩波ホールで公開された映画「ハンナ・アーレント」は、イスラエルで行われたアイヒマン裁判を取材したアーレントのレポートをめぐる論争を主題とする地味な内容であったにもかかわらず、連日行列ができるほどの大ヒットを記録した。私が観に行った時も当日券は完売で、開場を待つ人々が7階から5階までの階段を埋め尽くし静かな熱気が感じられた。映画の終わりでアーレントは学生たちに、自分の頭で思考する能力の重要性を訴える。思考する能力を失うことは人間であることを捨てることだと。ユダヤ人としてホロコーストを生き延びたアーレントは、哲学者であるが自覚的に政治的思考を貫いた。「全面的に、現在のであることが必要である」という師ヤスパースの言葉を信条としたアーレントは、根底的な思考によって現在の危機を乗り越えることを目指したのである。

戦後70周年を迎えた今年の夏、日本では安保関連法案に反対する人々が国会を取り巻き、政治に無関心といわれた学生たちも政治的自覚を持って運動を立ち上げている。「考えることによって強くなること、危機的状況にあっても考え抜くことで破滅にいたらぬように」というアーレントの言葉は、現在の日本の人々の心をとらえ、静かなブームを引き起こしたのだろう。

(みやがわ やすこ 文化学部教員)

もっと知りたいあなたに。 ※宮川先生ご推薦!



『人間の条件』

ハンナ・アーレント著；志水速雄訳
筑摩書房、1994
(114||ARE 2階 文庫)

人間は皆この世界に真っ白の状態生まれてくる。そして世界の中に自分を挿入することで人となっていく。しかし近代社会は公的世界から人々を遠ざけ、私的な消費社会にその活動を囲い込むことで、人間に世界疎外をもたらしているのではないか。アーレントは人間と世界との関係を根底から問い直していく。アーレントの入門書として最適の書だろう。



『暴力について：共和国の危機』

ハンナ・アーレント著；山田正行訳
中央公論社、2000
(310.4||ARE 3階)

20世紀は全体主義と戦争そして革命の時代であった。現在も「平和のための軍備」、「積極的平和主義」などの言葉が飛び交うが、暴力は平和を生み出す原動力では決してありえないことをアーレントは見事に明らかにする。暴力、権力、権威などの概念を根底的に考察する本書は、思考するための能力を鍛えてくれるにちがいない。



『戸坂潤全集』(第2巻)

※「日本イデオロギー論」収録
戸坂 潤著、勁草書房、1966
(121.6||TOS||2 地下1階)

戸坂潤はアーレントとほぼ同時代を生きた哲学者であるが、思想犯として捕らえられ終戦の直前獄死した。戸坂もアーレントと同じく「哲学は現在の問題を解決するためにある」と信じていた。戸坂が描く戦争期の思想界の状況と日本社会の様相は現代の問題を考える上でも多くの示唆を含んでいる。



『茶色の朝』

フランク パヴロフ物語；ヴィンセント
ギャロ絵；藤本一勇訳、大月書店、2003
(953.7||PAV 3階)

茶色とはナチスの象徴であり、この物語は普通の市民が政治的に無自覚なまま、全体主義に飲み込まれる様子を描いている。わずか26ページの絵本だが、極右政権成立の危機的状況にあったフランスでベストセラーとなり世界中に広がった。高橋哲也の解説とともに是非読んでほしい本である。

自著を語る (No. 90)



吉澤 卓哉 著

『保険の仕組み

—保険を機能的に捉える—』



千倉書房，2006年
(339||YOS 3階ほか)

保険(共済を含む。以下同じ)は、学生の皆さんには縁遠い存在かもしれません。けれども、よく考えてみると、それほど縁遠いものでもありません。たとえば、原付や自動二輪車に乗っているのであれば、少なくとも自賠責保険には加入している筈です(自賠責保険の他に、自動車保険にも加入している可能性があります)。また、家財(一人暮らしであれば自分の家財。家族同居なら家族全体の家財)に火災保険を付していることが多いでしょう。さらに、病院や診療所で治療を受ける際には健康保険証を提示することが一般的ですが、健康保険証とは、健康保険制度に加入していることの証(あかし)です。

ところで、この保険という経済的な仕組みの定義は、学界において、おおよその共通理解はあるのですが、一義的には固まっています。本書は、経済的な保険の必要十分条件を私なりに抽出することによって、保険を定義しようとするものです(学問分野としては商学・経営学ですが、法学や経済学の観点から保険を学ぶ皆さんにもお勧めします)。

ここで、少し考えてみてください。

①賭博や宝くじは保険ではないと言われていますが、それはなぜでしょうか(より正確には、保険をどのように定義したうえで、その定義規定のうちのどの条件に合致しないと考えるからでしょうか。以下同じ)。

②一般社団法人日本自動車連盟(JAF)は、会員から年会費を徴収したうえで、会員が運転する自動車の故障・事故時に、ロードサービスを基本的には無償で提供する事業を行っていますが、これは保険でしょうか(なお、金銭給付は保険の要件ではありません。現物給付の保険

もあり得るからです)。

③地震デリバティブは保険でしょうか。なお、地震デリバティブとは、オプション料を支払っておくと、もし一定地域で一定規模以上の地震が発生した場合には、損害発生の有無・程度を問わず、予め約定した金額が支払われるものです。

本書は、このような具体例を挙げながら、保険の必要十分条件を検討するとともに、本書が提示する保険の必要十分条件が、的確に経済諸制度を保険か否かに分類できることを検証しています。

保険の必要十分条件が判明すれば、新しい保険商品の開発に役立ちます。なぜなら、そもそも経済的な保険に該当しない場合には、保険商品として販売できないからです(もちろん、たとえ経済的な保険に該当したとしても、保険会社として一定の収益が見込めない、公序良俗違反のおそれがある、などといった別の理由で商品化がなされないことも多々あります)。

そこで、再び皆さんに質問です。失恋保険や落第保険は、すなわち、予め一定の金銭を支払っておけば、失恋や落第をしたときに、失恋や落第によって被った損害を支払ってもらえる商品は、経済的な保険と言えるでしょうか。また、それはなぜでしょうか。もし、失恋保険や落第保険が経済的な保険ではないとすると、保険商品化は実現不能です。他方、経済的な保険であるとすると、保険商品化の可能性があるということになります。

(よしざわ たくや 法学部)

Information

寄贈一覧（教員文庫）

寄贈期（2015年4月7日～9月18日）敬称略

◆就職活動でも図書館を！データベース活用ガイドスにご参加ください

図書館には就職試験に役立つ資料を一か所に集めた「資格・就職コーナー」があり、筆記試験対策や業界・企業研究、自己分析などに活用いただけます。また、有価証券報告書など、企業の詳細なデータを参照可能な「企業情報データベースサービス eol」や、新聞記事、人事情報、企業情報などの就職活動に役立つ情報を検索・閲覧できる「日経テレコン」など、Webでアクセスするデータベースも提供しています。

秋学期は就職活動に役立つデータベースの活用方法を紹介するガイドスを企画していますので、ぜひご参加ください。詳細は決定次第、POST、図書館Webサイトに掲載します。

◆図書館展示企画「宇宙と物理 一般相対性理論から100年にちなんで」

相対性理論という言葉を知ったことがありますか。

20世紀を代表する物理学者であるアインシュタイン（1879-1955年）が発表した理論で、「特殊相対性理論」と「一般相対性理論」があり、宇宙誕生・形成の説明や物理学の発展に寄与しただけでなく、その時間と空間の考え方は哲学や思想界にも大きな影響を与えました。この内、一般相対性理論（1915-1916年）は今年で発表から100年を迎えます。

今回図書館では、「宇宙と物理」をテーマにアインシュタインをはじめとした歴代の物理学者の著作資料の他、様々な物理理論や実験・観測・応用技術をグラフィカルに表わした資料等を紹介いたします。本学創設者である荒木俊馬総長は宇宙物理学や天文学の研究者であり、アインシュタインが来日した際には、学生総代としてドイツ語で挨拶されました。また、本学の益川敏英名誉教授は素粒子物理学の分野でノーベル物理学賞を受賞されました。この様に、アインシュタインや物理学とのゆかりが深い本学で学んでいる皆さんも、この機会に物理学を深く学んでみるのはいかがでしょうか。

展示期間：2015年9月29日（火）～12月28日（月）

◆「第11回京都産業大学図書館書評大賞」の選考・表彰について

京都産業大学図書館書評大賞の選考・表彰に関する日程は、次の通りです。

★入賞発表：平成27年11月26日（木）

※図書館内に掲示。POST、図書館Webサイトに掲載します。

★表彰式：平成27年12月16日（水）12時30分～

※表彰式はどなたでもご参加いただけます。

選考委員に直接講評などを伺える機会です。どうぞご参加ください。

編集後記

磯谷：

書評大賞講演会で休暇について話がありました。私は学生時代、本当に毎日ゴロゴロして過ごしていましたが、仕事を始めてからはなかなか自由には休めないものです。図書館の本を読めば、良い休暇を過ごすためのヒントが得られるかもしれませんね。

北村：

特集でご紹介しました津村氏のお仕事小説は、「兼業作家」であった津村氏ならではの(?)の視点で描かれていてとても興味深い作品が多いです。ぜひ一読ください。

合田：

新連載コーナー「図書館と私」はいかがでしたか？ 図書館はいつでも皆さんの利用を待っています。今は勉強や就活で忙しくても、一生のうちにいつかじっくり本と向き合える日がくるかも。そのときのためにも、興味のストックを探しにきてください。

鈴木：

秋、読書の季節ですね。本を読むと心が豊かになったり、人生の経験値が少しだけ増したような気がします。本から学ぶことって即効性はあまりありませんがじわじわと効いてくるんですよ。

徳田：

『Lib.』の編集は初めての経験ですが、先生方への執筆依頼など、楽しく業務をさせていただいています。

中谷：

津村氏の言葉に「リラックスすることは本当に難しい」とありました。深いですね。読書の秋ということで、いっそスマホの電源を切りデジタルデトックスするのも良いのでは？

吉澤 卓哉（法学部）

『企業のリスク・ファイナンスと保険』千倉書房、2001

『保険の仕組み：保険を機能的に捉える』千倉書房、2006

『北海道判例集』小樽商科大学、2015（執筆）

千石 英世（文化学部）

『アイロンをかける青年：村上春樹とアメリカ』彩流社、1991

島 憲男（外国語学部）

『Die Sprache und ihre Wissenschaft zwischen Tradition und Innovation : Akten des 45. Linguistischen Kolloquiums in Veszprém 2010 = Language and its study between tradition and innovation : proceedings of the 45th Linguistics Colloquium, Veszprém 2010』P. Lang, 2015（執筆）

田畑 恒平（外国語学部）

『Informatio : 江戸川大学の情報教育と環境』(Vol.12) 江戸川大学、2015（執筆）

四宮 章夫（法務研究科）

『すみれ：人に寄り添う』民事法研究会、2015

山本 啓二（文化学部）

『地球外生命論争：1750-1900：カントからロウエルまでの世界の複数性をめぐる思想大全』工作舎、2001（共訳）

近藤 寿人（総合生命科学部）

『芸術と脳：絵画と文学、時間と空間の脳科学』大阪大学出版会、2013（編著）

北澤 義之（外国語学部）

『アラブ連盟：ナショナリズムとイスラームの交錯』山川出版社、2015

西川 信廣（文化学部）、牛瀧 文宏（理学部）

『学校と教師を変える小中一貫教育：教育政策と授業論の観点から』ナカニシヤ出版、2015（共著）

植松 茂男（文化学部）

『Long-term effects of Learning English : Experiences from Japanese primary schools』Springer, 2015

伊藤 豊（理学部）

『New research on YBCO superconductors』Nova Science Publishers, 2007（執筆）

『Superconducting cuprates : properties, preparation and applications』Nova Science Publishers, 2009（執筆）

今井 薫（法務研究科）

『保険契約法』損害保険事業総合研究所、2015（共著）

若松 正志（文化学部）、鈴木 久男（文化学部）

『角倉一族とその時代』思文閣出版、2015（執筆）

寺町 信雄（名誉教授）

『国際貿易論の理論と日中貿易』成文堂、2015